

DS-512 本人確認ガイドライン解説書 参考資料
本人確認手法の検討用ワークシート

本ワークシートの目的

・本シートは、本人確認ガイドライン（DS-511^{※1}）及びその解説書（DS-512^{※2}）において求める検討事項等を、ワークシート形式で整理したものです。
 ・対象手続の担当者が本人確認手法に関する検討を漏れなく・円滑に実施できるようにするとともに、検討結果を標準化された様式で文書化することで、関係者との共有や今後の評価・改善にも活用できるようにすることを目的としています。

※1 DS-511 行政手続等における情報システムのセキュリティに関するガイドライン (https://www.digital.go.jp/resources/standard_guideline/ds511)
 ※2 DS-512 行政手続等における本人確認に関するガイドラインの解説書 (https://www.digital.go.jp/resources/standard_guideline/ds512)

検討プロセス	検討項目	説明	記入欄No.	整理結果記入欄	
業務分析と前提情報の整理 (解説書 4.1)	基本情報	名称・目的	本人確認に関するリスクとその影響は、対象手続が提供する機能、サービス、取り扱う情報資産、手続によって得られる権益等によって様々です。対象手続におけるリスクを正確に特定するためには、リスク分析に必要な前提情報を収集・整理し、明文化し、取り扱う情報	1-1	
		根拠法令等		1-2	
	業務概要	対象手続の申請者・利用者		1-3	
		業務の関係者		1-4	
		業務フロー		1-5	
		サービス提供に必要な申請者の情報		1-7	
		取り扱う情報		1-6	
	システム概要	機能一覧	システムの要件定義書等において整理済みの情報がある場合は、当該文書名を記入してください。	1-8	
		システム利用者とアクセス権限		1-9	
		他システムとの連携の概要	(各項目の説明は解説書 表4-1を参照)	1-10	
その他	根拠法令等による制約		1-11		

検討プロセス	検討項目	説明	記入欄No.	検討結果記入欄	
対象手続の保証レベルの判定 (解説書 4.2)	1) リスクの特定	リスクケース① 「実在する人物になりました申請や登録」が顕在化した場合の悪影響	対象手続の身元確認において想定されるリスクケースと、それが具体化した場合の悪影響を整理・明文化します。 ※左記のリスクケース①②③④は代表的な例ですので、必要に応じて変更・追加してください。	2-1-①	
		リスクケース② 「実在しない架空の人物になりました申請や登録」が顕在化した場合の悪影響		2-1-②	
		リスクケース③ 「登録済みの利用者に対する不正アクセス」が顕在化した場合の悪影響		2-1-③	
		リスクケース④ 「フィッシングサイトに対する情報入力」が顕在化した場合の悪影響		2-1-④	
	2) リスクの影響度の評価 3) 保証レベルの判定	身元確認におけるリスクの影響度	リスクケース①が顕在化した場合の影響度 リスクケース②が顕在化した場合の影響度 総合的な影響度（身元確認）	2-2-① 2-2-②	
		対象手続に求められる身元確認保証レベル		—	なし (最も高い影響度に応じて自動入力されます。)
		身元確認におけるリスクの影響度	リスクケース③が顕在化した場合の影響度 リスクケース④が顕在化した場合の影響度 総合的な影響度（本人認証）	2-1-③ 2-1-④	
		本人認証におけるリスクの影響度		—	なし (最も高い影響度に応じて自動入力されます。)
		本人認証に求められる身元確認保証レベル		—	なし
		対象手続に求められる本人認証保証レベル		—	なし

検討プロセス	検討項目	説明	記入欄No.	検討結果記入欄		
身元確認手法の選定 (解説書 4.3)	1) マイナンバーカードを用いた身元確認手法の検討	ア 電子署名の要否	マイナンバーカードを用いた身元確認手法には複数の手法が存在するため、解説書4.3の1)のア～エを参考として、マイナンバーカードを用いた手法の採用を検討します。	3-1-ア		
		イ スマートフォンのマイナンバーカードの活用方針		3-1-イ		
		ウ 複数機能の併用の回避		3-1-ウ		
		エ 容貌確認の要否		3-1-エ		
		マイナンバーカードを用いた身元確認手法の検討結果	ア～エの検討結果をもとに、採用するマイナンバーカードの機能を選択します。	3-1-手法	①実物のマイナンバーカード（券面事項入力補助AP） ②スマートフォンのマイナンバーカード（属性証明機能） ③実物のマイナンバーカード（署名用電子証明書） ④スマートフォンのマイナンバーカード（署名用電子証明書） ⑤その他（※この欄を上書きして記入してください）	
	2) マイナンバーカード以外による手法と補完的対策の検討	ア マイナンバーカード以外による手法の要否	事業目的の遂行や公平性の観点から代替手法の要否を検討し、代替手法が必要な場合は、対象手続の保証レベルに応じた手法と補完的対策の採用を検討します。	3-2-ア		
		イ 採用する代替手法と補完的対策の検討	代替手法の内容		3-2-イa	
			代替手法で受け入れる本人確認書類		3-2-イb	
			補完的対策の要否・内容		3-2-イc	
		3) 実装モデルと実現手段の検討	ア システムの実装モデルの検討	身元確認手法を実現するための実装モデル、実現方式について検討します。	3-3-ア	
イ その他の実現手段の検討		3-3-イ				
本人認証手法の選定 (解説書 4.4)	1) マイナンバーカード又はバスキの採用検討	ア マイナンバーカード（利用者証明用電子証明書）の採用検討	本人認証手法の第一候補となる、マイナンバーカード又はバスキの採用可能性について検討を行います。	4-1-ア		
		イ バスキの採用検討		4-1-イ		
	2) その他の本人認証手法の採用検討	ア その他の本人認証手法の採用の要否	事業目的の遂行や公平性の観点から代替手法の要否を検討し、代替手法が必要な場合は、対象手続の保証レベルに応じた手法と補完的対策の採用を検討します。	4-2-ア		
		イ 採用する代替手法と補完的対策の検討	代替手法の内容		4-2-イa	
			補完的対策の要否・内容		4-2-イb	
	3) 実装モデルの検討	ア システムの実装モデルの検討	本人認証手法を実現するための実装モデル、実現方式について検討します。	4-3-ア		
イ その他の実現手段の検討			4-3-イ			